

学級会における合意形成に向けた指導・助言の在り方

新潟市立小針小学校

教諭 寺山晋一（平成 20 年度）

学習指導要領解説 特別活動編の目標において、小学校から高等学校まで一貫して示されているのが「合意形成を図ること」に関する資質・能力の育成です。これは持続可能な社会の担い手として、多様な人々と協働しながら多くの社会的変化を乗り越えていくためにも大切な力です。この力を育む場として中核を担う教育活動が学級会です。

私は学級会における教師の指導・助言が極めて難しいと感じています。それは、子どもの主体性を大切にしながらも教師の適切な指導・助言を行い、一人ひとりの多様な思い・願いがある中で学級としての納得解を出すところまで話し合いを進めるからです。子ども任せの学級会では、何も決まらないことも珍しくはありません。

そこで本実践では、学級会の過程を「出し合う」「分かり合う」「深め合う」「まとめる」と位置付けた構造的な板書を残すことで、話し合いの論点を明確にできると考えました。また、学級会の収束段階である「まとめる」において合意形成のプロセスを子どもに選択させることで、話し合いの方向性を確認しながら学級全員の思い・願いを大切にされた合意形成になると考えました。